

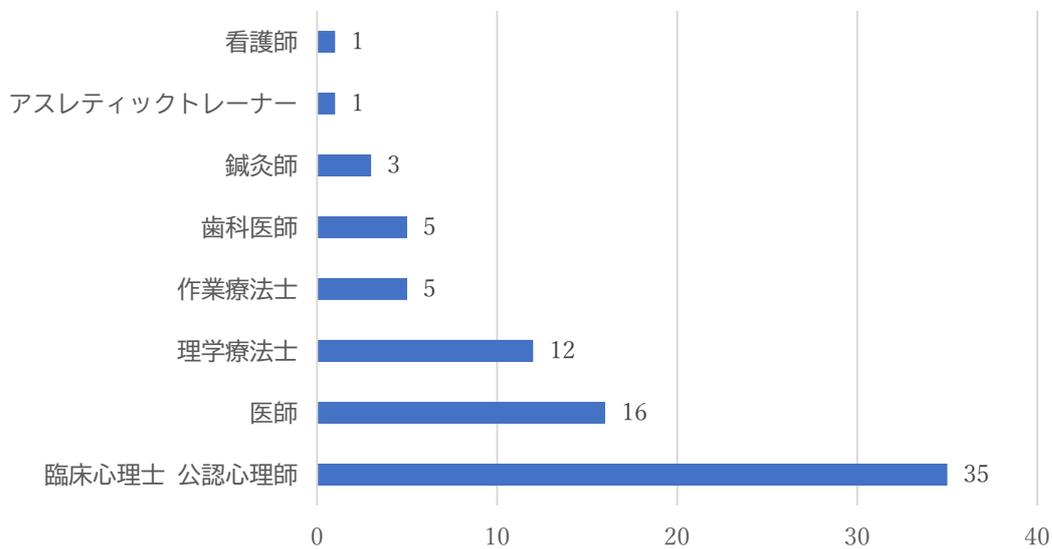
# 心と身体の痛みセミナー 慢性疼痛治療に使えるできる心理士(師)の工具箱 アンケート集計結果

2023年1月21日(土) 14:00~16:30 (ハイブリッド開催)

参加者数 計 142名 (オンライン 127名 現地参加 8名 登壇者 7名)

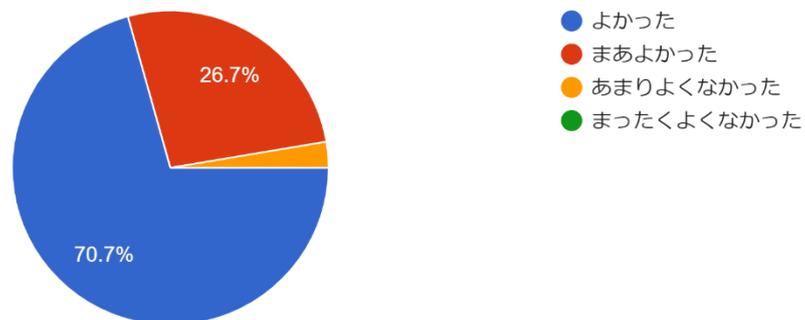
あなたの職種を教えてください。(兼任の場合は主な業種を1つ選択してください)

75件の回答



今回のセミナーの感想をお聞かせください。

75件の回答



感想や意見をお聞かせください。

- ・様々な手法による心理療法を学ぶことができ、理解が深まりました。
- ・いくつかの心理療法の実例を分かりやすく提示していただけてよかったです。
- ・ふだん、高齢者のリハビリをしているので心理士さんと関わる機会がなく、今回心理士さんの取り組みがとてもよくわかってよかった。
- ・後日録画視聴をしたいと思います。
- ・心理師について医師側からの意見が聞けて参考になりました。
- ・具体的な症例をお聞きすることができて理解が深まり、大変勉強になりました。
- ・心理の技法ごとの症例は大変参考になりました。
- ・症例の具体的な様子や、心理士さんのお気持ちを拝聴することができよかったです。ありがとうございました。
- ・疼痛における心理療法の取り組みが具体的に学べて貴重な機会となりました。登壇された先生方の知見に感銘しました。ありがとうございました。
- ・現場の違う心理士の働き方を知る機会になってよかったです。
- ・心理専門ではない一般医師ですので、知らないことや難解なことがあり、知識を増やせました。
- ・臨床心理士、公認心理師の仕事内容や、他職種との関わりが学べ有意義でした。
- ・とてもとても勉強になりました。
- ・それぞれの立場の先生方から慢性疼痛に関わる治療法を教えて頂き、大変勉強になりました。ありがとうございます。
- ・臨床心理士の先生のお話を聞く機会があまりなかったので勉強になった
- ・精神科で働いているので、痛みを訴える患者さんであっても、同時に心理的な悩みも話されることが多かったのですが、身体の痛みに関わる診療科では、痛みを中心とした訴えが多く、そこで心理師がどのように関わっているのか、具体的に聞くことができ、勉強になりました。
- ・心理士さんが取り組まれている慢性疼痛の関わり方など事例で見せていただき、大変イメージがしやすく参考になりました。ありがとうございました。
- ・心理士さん達のお仕事内容を知る良い機会になりました。症例提示もありわかりやすかったです。
- ・慢性疼痛への現在のアプローチを知れて良かったです。
- ・総合病院で働いていますが、慢性疼痛の方にお会いする機会も多く、その中で心理的な要因というのは切り離せないなど常日頃痛感しています。様々な流派からの視点に立ったアプローチについて先生方からのお話を聞いて、自分の介入について改めて整理される機会となりました。ありがとうございました。
- ・慢性痛領域での心理士さんの役割がよく分かりました。

- ・疼痛を抱える患者さんへの様々な心理的アプローチを学べて自分の視野の広がりを感じました。心療内科医からの心理職へのリアルなツッコミやご期待も伺えたので為になりました。
- ・それぞれの事例をお聞きできたのが有意義でした。
- ・勤務地が関東にも関わらず参加させていただきまして大変ありがとうございました。
- ・貴重な機会を戴きまして寛大なご配慮に感謝いたしております。”
- ・心理職とほとんど連携したことが無い医師、または医師と深く連携したことが無い心理職の方々にとってガイドとなる内容で、わかりやすかったと思います。
- ・公認心理師の資格を持つ大学院2年生です。これから心理臨床を行うにあたり、興味のある痛みの分野についてさまざまな視点からのアプローチや医師や他医療者との連携について学びの多い時間となりました。これからも学びを深められるよう研鑽していこうと思いました。貴重な学びの時間をくださりありがとうございました。
- ・保険点数が無いなかで疼痛についての心理的支援がされていてとても参考になりました。希望を言えば、心理職のこういう場で高齢者、障害者、マイノリティなどの事例が少なく、大学病院の発表だからかもしれないと思いました。CBTは効果的だとは思いますが、高齢者や障害者など発語困難な方への支援に苦労している者としては、非言語の心理的支援や他職種連携などの事例があると助かります。
- ・慢性疼痛の話というより、学派ごとの技法紹介をしているだけの印象を受けました。お一人ずつの時間が短いので仕方がなかったのだと思いますが、もう少し具体的な介入の仕方やその技法ならではの部分を詳しく聞きたかったです。
- ・分析、CBT、といった異なる技法、考え方を基盤としてに心理介入をされている方々のお話でしたが、似通っているところが多く、最近の心理臨床に真剣な方は、自然と折衷的になってきているものだと思います。私も臨床現場にいる1心理士として、患者さんクライアントさんにお会いすると、知っていることだけでなく、知らなかったことも新たに調べたり、色々と総動員してやっています。最近、自分は何をベースにしているかということは、簡単に言えなくなっていることに、お話を聞いていて、振り返ってありました。
- ・ブリーフセラピー、力動的心理療法、認知行動療法に共通する要因として行動活性化があると思いました。脳画像所見の蓄積により、行動活性化療法は大脳辺縁系に働きかけることが実証されています。
- ・痛みというどうにもならないことに対してのアプローチが心理面からも出来るという希望が見えるご講演でした。問題は人の内ではなく人と人にある、という言葉や、動かない人が動くタイミングで動作的アプローチを介入するなど、なるほど、と思った技法があり勉強になりました。痛みというそのものにだけ目を向けるのではなくてその背景に結びついている心の問題にも耳を傾けてそれとそれとはまた別のこととしてクライアントさんに認識してもらえそうな関わり、そしてその結果が良くなっていることを査定

して示せることも大切と感じました。認知行動療法でセルフモニタリングすることによって自己理解に繋げて行くことも、手書きでということでもた温かみもあり共同作業として目標に向かっていくのを実感出来るように感じました。出来なかった日にハートをつけるというアイデアはとて素晴らしいと思います。悪いマークでなくてハートというところが心を労わってお休みしたような気持ちになれていいのかなと思いました。水野先生の医師と心理師(士)の協働についても自分が求められる像が見え、自分もこうありたい、という姿勢が見えたように思います。気持ちを引き締めて驕ることなく研鑽していけたらと思います。本日はよい学びを本当にありがとうございました！

- ・盛りだくさんな内容なのに、消化不良な印象がなく、満足感が得られました。登壇された先生方が、工夫を凝らしてくださったのがよく伝わりました。ありがとうございました。
- ・症例を通じて各技法による介入を提示頂き、大変勉強になりました。また、協働における心理職の姿勢のお話は示唆に富んでいて感銘を受けました。有難うございました。
- ・症例提示では、大倉先生のご発表でバウムテストの変化から心理面接の延長と終結を考えられていた点が興味深くおもしろかったです。
- ・水野先生のご講演の中では、「治療を見据えて病態仮説を構成する」お話から、これまで自分は病態仮説を作ってそのあと治療を考えるという割と単純な矢印で理解をしていたことに気づかされました。使える病態仮説を作ることが大切だと理解しました。”
- ・水野先生のご講演を興味深く拝聴いたしました。3枚目のスライド「じゃあ何してるの？」に示された4項目は、最初の2つ（患者や家族の心理的サポート／患者の心理検査、心理療法）が患者とその家族について、続く2つ（医療スタッフのメンタルケア／患者・医療者関係の調整）が医療スタッフが関わることについてでした。公認心理師法第2条に規定される「心理に関する支援を要する者」に医療スタッフを含めているのが実態なのだと理解しました。また、最後から3枚目のスライド「心理職に期待すること」に示された3項目には、患者とその家族の心理的サポートに関する記述は、「治療者・患者間の関係調整」以外にありません。心理職には、医療スタッフを対象とする支援を期待しておられるのだと理解しました。いろいろ考えさせられました。
- ・慢性疼痛の現場で対応されている心理士の臨床のお話が聞けてよかったです。
- ・慢性疼痛への心理療法について、実践ケースを紹介いただき大変勉強になりました。
- ・やはり心理職の専門的介入が大切だとつくづく思いました  
しかし、なかなか病院には理解されず、ペインクリニック専従心理士を雇用してくれませんが募集しても応募もないのでしょうか
- ・ご専門が違う3人の心理士さんのご講演は、大変勉強になりました。今後も是非、心理士さんの企画を希望します。
- ・整形外科をやっているが、心理療法や認知行動療法が今後の診療に行かせそうと感じた
- ・ブリーフセラピーの話が分かりやすかったです。
- ・心理の世界を知ることができて、大変に勉強になりました。

- ・専門では無い分野のお話が聞けて勉強になった
- ・痛みに対して多角的に対応するべき、ときがきました。  
色々な心理療法で慢性疼痛にアプローチしている心理士さんがいらっしやるとわかり、自分のオリエンテーションで工夫していこうと改めて前向きに考えることができました。また、その共通点なども理解でき、今後の臨床にも生かしていけそうです。ありがとうございました。
- ・心理職について理解を深める事が出来ました。
- ・心理士の方の実践例を含めた講義は大変わかりやすく、勉強になりました。
- ・とても興味深い内容でした
- ・慢性疼痛の患者に対してどのように関わられているのかを知れて勉強になったとともに、医師がどのようなことを心理士に求めているのかも知れて参考になった。

今後どんな企画を希望されますか。

- ・催眠など
- ・多職種による学際的アプローチ
- ・医師と心理士の連携を症例を交えて発表など
- ・集学的診療のロールプレイや模擬ケースの流れをすべて見たいです
- ・片頭痛の CBT について、勉強したいと思いました。
- ・多職種との協働について
- ・慢性疼痛へのチームアプローチの症例発表
- ・慢性痛の疫学調査結果を知りたいです。  
モデル事業化されたことでさまざまな活動がされています。  
結果、慢性痛患者さんの数は減っているのでしょうか？  
よろしくをお願いします。
- ・疼痛への催眠療法
- ・アクティビティペーシングの実際
- ・今後もハイブリッド開催を継続していただけますと、地方在住者としては利便性が良く積極的に参加できますため幸いです。宜しく願い申し上げます。
- ・心理職と医師の連携について、成功例・失敗例を具体例とともに提示いただければ、さらに理解が深まると考えます。
- ・今回のような痛みに関連した事例形式の研修会を希望いたします。
- ・高齢者、障害者などや非言語の心理的支援、多職種連携、集団療法などの事例を希望します。

- ・同じような企画がありますと嬉しいです。他職種が介入した、事例検討がありがたいです。行動活性化法、抑うつと慢性疼痛の関連及び治療法について（慢性疼痛は、抑うつと身体症状と観ることもできると思います。抑うつと不安と怒りはそれぞれ相関があり、ネガティブなトライアングルを形成しているので、それを断ち切る介入が必要だと思います。）
- ・催眠療法について学びたいと感じました。
- ・痛みの部位と感情の抑圧、言語化困難さ、みたいなテーマで勉強してみたいです。個人的な印象でしかないのですが、おなかの下の方に行くほど困難なように思います。CBT 導入のタイミングや進め方にも関わるのではないかと感じています。
- ・異なる心理療法の立場からの痛み患者の症例検討
- ・慢性疼痛の方に対して有効な治療(身体、心理)について
- ・ペインクリニック慢性疼痛治療における動作法をお願いします
- ・今後も是非、心理士さんの企画を希望します。
- ・多職種連携の具体を知りたいです。
- ・スポーツ関連の傷害と心理。
- ・薬やりハビリを併用している患者さんに心理療法の動機付けを高めてもらうのがなかなか難しいと感じています。疼痛の患者さん向けの心理教育について具体的に聞いてみたいです。
- ・困難な症例への対応方法、事例紹介、心理テスト活用法などについて
- ・はい、ぜひ。系統的内容と臨床をくみあわせたもの。薬物療法との組み合わせなど”
- ・CBT についてもっと知りたいです。

このセミナーをどこでお知りになりましたか？（主なものを1つご選択ください）

